SUNDAI KOFU

増える体験学習 挑戦心育む

「愛情教育」を建学の精神に掲げ、小中学校・高校を擁す学校法人駿台甲府学園（甲府市塩部２丁目、田口浩一理事長）。豪州の姉妹校との交流や富士登山、コンクールへの出品など、生徒自らが五感を使って多くのことを体験・吸収できるよう、さまざまな活動の舞台を用意している。生徒たちの心に寄り添い、チャレンジング・スピリットを育むなど、たくましい人間づくりを目指している。

駿高 豪州の姉妹校と交流

異文化に触れ国際理解

外国人との交流を通し、グロバールな心育む―。グローバル教育に力を注ぐ駿台甲府中高（八田政久校長）。10月6～11日には、駿高へ豪州の姉妹校・エンデバー高から21人の生徒と引率教員ら合わせて25人が来校した。3月には駿台甲府中3年生有志がエンデバー高を訪れていて、今度は迎え入れる形となった。

昨年のマレーシアの姉妹校に続いての交流で、グローバル推進室長の河﨑哲郎駿高副校長は「多感なこの時期に、異文化や言語を同年代の子どもたちとの交流を通して体感することはとても実りあることと考えます」と話す。海外へなかなか行けない生徒も多く、海外高生を受け入れるメリットは大きいという。

「はし！」。駿高ESS部員のクイズに答えるエンデバー高生（写真上）。互いの文化紹介後、エンデバー高生と記念写真を撮る駿高生たち（同下）＝いずれも駿高塩部キャンパス

同年代から刺激

今回、駿高1、2年生有志がホストファミリーとしてエンデバー高生を自宅に受け入れた。学校ではともに行動し、授業や清掃に参加してもらうなど、通常の学校生活の体験の場を設けた。さらに、エンデバー高生は日本語で、ESS部の駿高生は英語でそれぞれの文化や歴史、食生活などを紹介。華道体験に目を輝かせ、書道のパフォーマンスに目を見張るエンデバー高生をアシストした。

ESS部部長の佐藤千夏さん（2年）は「緊張しましたが、やりがいがありました」とアイコンタクトを大切に、笑顔で対応。海外生活の経験もあるそうで、「英会話は頻繁に使わなければ忘れがち。今年も経験できて本当によかったです。いい刺激になりました」と目を輝かせた。中国から単身、駿高に留学している劉清嵐さん（2年）は「日本の医学部を目指してきました。仲間や先生方は優しく、学習環境も良く駿高に来て本当によかったです。こういった体験もできてうれしいです」と笑顔を見せた。

ミケーラ・ケイヒルさん（中央）との再会を喜ぶ中里愛梨さん（右）。左は中里さんの母親＝山梨市

広がる価値観

3月の海外研修に参加し、ホームステイでお世話になったミケーラ・ケイヒルさんと再会した中里愛梨さん（1年）は「本当にうれしかったです」と感涙のお出迎え。3月は観光気分の軽いノリの部分があったそうだが、「ミケーラたちの温かい対応に心救われ、いい体験ができました。多民族、多文化の豪州で視野が広がりました」と話す。

英語が話せる母親を見て育った中里さんは、外国人とも臆せず話す母の姿に、「私も外国人と英語で話したい」と考えていたという。「ミケーラと出会う機会を与えてくれた駿高に感謝していますし、駿高に来て本当によかったと思っています」と白い歯をのぞかせた。

中里さんの母親は「夫の仕事の関係で3年間米国にいた際、英語を勉強。私自身の価値観が広がりました。東日本大震災時、帰国から10年経っていましたが、当時、現地で知り合った外国人の友人たちから心配のメールをいただくなど、国籍や文化が違っても『つながっている』ことを実感しました」と振り返る。互いが助け合うことの重要さ、世界を知ることの大切さを痛感していて、「娘にも海外に行き、多くのことを学んでほしいと思っています。それだけに駿台の取り組みは本当に歓迎しています」。

河﨑副校長は「今回来日したのは日本語を専攻している生徒たち。日本に興味を持つ同年代の外国人と触れ合うことで、日本について再考したり、誇りを持ったりするきっかけとなればと思っています」と話していた。

書道部の生徒たちがパフォーマンスを披露（写真上）。華道部の生徒たちの手本を見ながら生け花に挑むエンデバー高生（同下）＝いずれも駿高塩部キャンパス

駿中 学年別に富士登山

友人と支え合い達成感

駿台甲府中（八田政久校長）は9月下旬、富士登山を実施。昨年度までのマラソンに代わり、登山を通じて持久力や忍耐力など強い精神力や強じんな体力を養おうというものだが、登山を終えた生徒たちの間には達成感からすがすがしい表情が広がった。

世界文化遺産にもなった日本の象徴・富士山だが、一合目からの登山経験がある生徒はほとんどいなかった。学年ごとにルートを決めた中、3年生は、その昔、登山道が急な登りになることから馬が引き返したという吉田口登山道の「馬返」をスタート。標高2300㍍となる五合目のゴールを目指した。

北口本宮冨士浅間神社を出発する1年生たち

交わすあいさつ

木々が生い茂る登山道はひんやり。「涼しいね！」と声を弾ませる女子もいて、心地よい空気が広がった。「木が倒れているけど英語で何て言うか分かる？」。ともに登るクリストファー・マギル教諭の質問に答える生徒など会話を楽しむ姿もあった。一方で、体が慣れる二合目付近までは大粒の汗を流しながら登る生徒や疲れから言葉が少なくなる生徒もいた。

登るにつれ、足場は急に。段差の激しい木の階段や石段に疲労を感じる生徒がいる一方で、ゲームを楽しみながら登る男子生徒や、高地トレーニングを兼ねてトレイルランをする男子生徒もいた。ところどころで開ける視界に心地よい汗をぬぐい、水分を補給。すれ違う登山客もいて、河野隆太君は「あいさつを交わすのは心地よく、それだけで足が軽くなった気がしました」。

岩場を登る3年生（写真上）。五合目付近ですれ違う登山客にあいさつをする駿中生（同下）

あきらめない心

スタート時はクラス単位で登ったものの、途中からは個々のペースに合わせた登山にシフトチェンジ。なかなか見えないゴールに心が折れそうになることもあったが、生徒たちは支え合った仲間の存在を強調した。田中真愛さんは「一人で黙々と登った二合目までと、友だちと声を掛け合いながら登った五合目までの距離は後者の方が長いのですが、圧倒的に短く感じました」と話し、「友だちと協力することの大切さ、仲間と登ることの楽しさを知ることができました。多くのことを学べ、この機会を与えてもらえて本当によかったです」と声を弾ませた。

「友だちの『頑張れ！』の言葉に励まされゴールできました。少しは根性がついたかな。五合目で食べたお弁当はおいしかったです」と棚橋葉月さん。途中バテたが、懸命に頑張ったことで納得いく登山になったという佐久間諒さんは「最初はできなくても頑張って続けることで結果がついてくる、あきらめない心を学びました。何事にも全力で取り組み、自分が納得いくまで頑張りたいと思いました」と振り返った。安田圭佑さんは「最初は地獄と思った登山も、自分のペースで歩くことで自然観察を楽しみながら到着できました。勉強も同じ。富士登山を通し、勉強のあり方を学べた気がします」と話す。

生徒とともに登った八田校長は「富士登山の目的はいろいろありますが、実体験を通じてそれぞれが達成感を感じるなど実りある活動になりました。『続けてほしい』という生徒たちの声もあり、今後はさらに充実した活動にしていきたいと考えています」と話していた。

自分のペースで仲間とともに＝いずれも富士山

駿高美デ科 県高芸文祭ポスター

恵まれた環境、夢広がる

ぬくもりある背景に、明るくほほえむ少女―。11月に開かれる県高校芸術文化祭のポスターに選ばれた駿台甲府高美術デザイン科の武川七瀬さん（3年）は「まさか選ばれるとは思っていなかったのでびっくり。本当にうれしかったです」と笑顔を見せた。

県高芸文祭ポスターに選ばれ、笑顔を見せる武川七瀬さん（写真中央）。左は、ポスターの原画。右は大好きな祖父へ贈った作品

ポスターに描いた少女は武川さん自身。その曇りのない表情は今の武川さんの心を表す。現在まで、学校は休まず通っているという。将来の目標は保育士。「小さい子どもが大好きで、保育士さんだったら絵も生かせると思って。絵はこれからもずっと描き続けていきたいです」と目を輝かせた。

アクリルと水彩絵の具を使って制作。当初、構図に悩んだが、「テーマの『芸術の個性深まるよき日かな』に沿った作品にしようと思いました」と武川さん。山梨からあふれ出る"個性"をイメージ。背景はアクリル絵の具を使って日本の四季を表現し、少女は水彩画で柔らかく仕上げた。

長坂中出身。決して絵が好きなわけではなかった。中学時代は不登校だったという。「私立なら全日制に入れるかもしれないというのが駿高美デ科を目指したきっかけでした」と振り返る。入学当初は絵が下手だったというが、「絵が上手な友だちと仲良くなり、つられて描いているうちに絵を描くことが楽しくなりました。友だちにも、先生方にも恵まれて駿高美デ科に入って本当によかった。毎日が本当に楽しいです」と満面の笑みを見せた。

1年次には駿高美デ科展に大好きなウサギをモチーフにした油彩で同学年準大賞を受賞。2年次には県高芸文祭で、らせん階段を上る自画像の油彩で奨励賞を手にした。さらに、「陽だまり」と題して出品した美デ科展では、大好きな祖父を驚かせようと、干したころ柿がのれんのように連なる前に穏やかな笑顔で座る祖父を描いた。

〈企画・制作／山梨日日新聞社広告局〉

高校普通科
第2回 学校説明会＆オープンキャンパス
11月4日(土) 9:00～
事前申込不要

高校美術デザイン科
体験入学
11月11日(土) 9:30～
昼食付き
事前申込制

中学校
駿中入試問題解説Ⅰ（国・算・理）
10月21日(土) 9:30～
事前申込制
駿中入試問題解説Ⅱ（国・算・社）
11月11日(土) 9:30～
事前申込制

小学校
専願入試出願受け付け中!
【試験日】10月28日(土)
〈出願期間～20日(金)〉
一般入試
【試験日】12月2日(土)
〈出願期間11月17日(金)～24日(金)〉

[塩部キャンパス] 〒400-0026 山梨県甲府市塩部2丁目8-1
■駿台甲府高等学校 普通科
TEL055-253-6211 FAX055-252-5395
http://www.sundai-kofu.ed.jp/high/

[今井キャンパス] 〒400-0845 山梨県甲府市上今井町884-1
■駿台甲府小学校
TEL055-244-0411 FAX055-220-2838
http://www.sundai-kofu.ed.jp/elementary/
■駿台甲府中学校
TEL055-243-5200 FAX055-243-5202
http://www.sundai-kofu.ed.jp/junior/
■駿台甲府高等学校 美術デザイン科
TEL055-241-5311 FAX055-241-8304
http://www.sundai-kofu.ed.jp/art/